



GLOBAL INNOVATION CLASS

グローバルイノベーションクラス



高校クラス

GUIDE BOOK

2026



聖学院 中学校
高等学校

GLOBAL INNOVATION CLASS

「ものづくり」「ことづくり」を通して 世界に貢献できる人を育てるクラス

本校では、これまで探究型教育を、授業・宿泊行事・海外研修等の中に数多く取り入れてまいりました。それをさらに推し進め、生徒が自らの問いに基づいて学び、自由な発想でアウトプットできるクラスを設置しました。そのため、広い視野と生徒個人の内外でのイノベーションを重視しています。通常の教科の他に「LiberalArts」「Immersion」「STEAM」「Project」の4つの独自教科を設置し、教科横断で授業を行っています。また社会課題やSDGsを自分ごととして理解し、社会に貢献できる人財の育成を目指しています。これは本校の教育理念「Only One for Others」を真に具現化するクラスです。

※聖学院中高は基本的には中高一貫校ですが、GICは、内部進学生と高校入試で入学した生徒の両方で構成されています。

自分の価値観に イノベーションを起こす

Immersion（週 3 時間）

Immersionは外国語環境を作り、ネイティブの教員のもと他教科を学習することで、語学力を伸ばす外国語教育法の1つです。ただし言語は環境であり手段であるため、テーマや教科の学習に比重が置かれます。GICでは「公共」「家庭科」「保健」の授業を、ネイティブと日本人の教員2名体制で行っています。日本とは異なる視点で学ぶことで、語学力だけではなく、生徒の中にイノベーションを起こすことを目指しています。



聖学院の英語授業では「SS コース」を設置（週 6 時間）

SSコースでは、ネイティブ教員によるオールイングリッシュの授業にて、英語でのディスカッション、プレゼンテーション、英字新聞の多読、エッセイの練習などを行っています。ソーシャルイシューを取り入れることで、内容の濃い議論ができ、単に英語の表現を学ぶことにとどまらない充実した授業となっています。

※英語は習熟度別授業となっており、SSコース、Sコース、Aコースの3コースで展開。
SSコースは英検2級以上取得者が対象です。

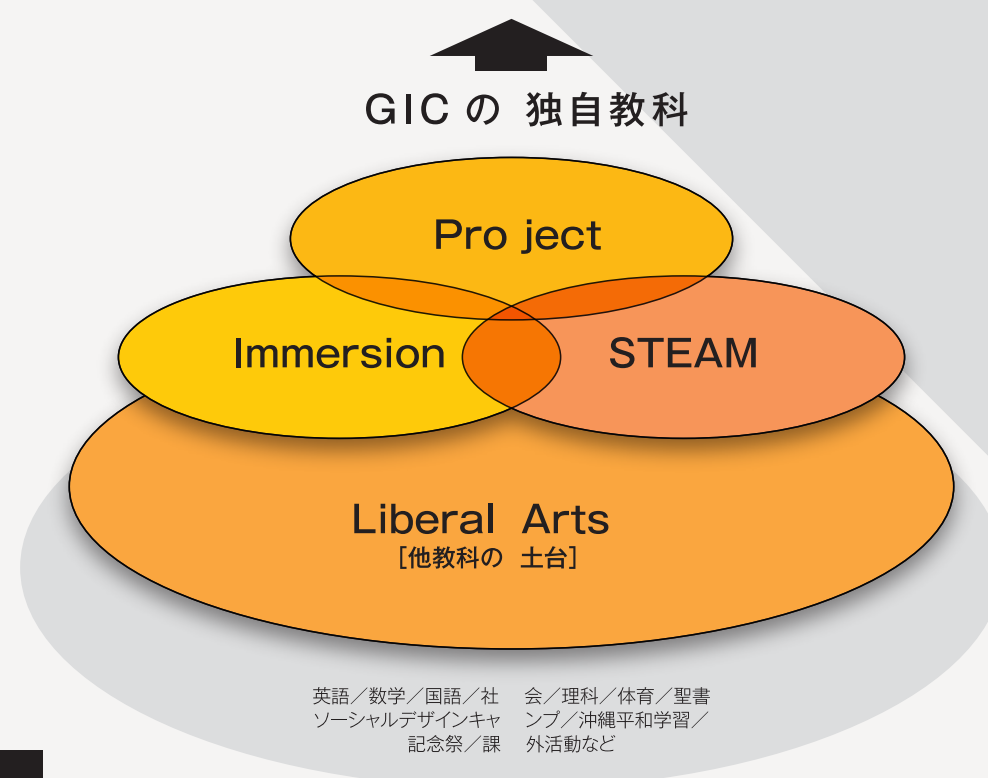
考え方を学ぶ

Liberal Arts（週 2 時間）

語義的には「リベラル」＝束縛されていない、「アーツ」＝作り出す技という意味で「自由になるための技法」です。知っているつもりの知識や情報について、改めて「どういう意味なのか」「本当にそうか」を考え、自分自身についても相対化することで既成概念を取り払い、その上で問い続けます。考え方そのものを学ぶ教科といえます。借り物ではない自分なりの理解と視点がなければアウトプットは生まれず、そういう点で他の独自教科の土台となる授業です。



【生徒の 育成像】
世界的な課題に対して 自分事として取り組める
「ものづくり」「ことづくり」を 通して、他者や世界に貢献できる
海外大学進学や海外留学等、世界 を視野に入れて学ぶことができる



●2025 年度 高校 1 年生 GIC の時間割例

	月	火	水	木	金	土
1	英語論理表現	英語 コミュニケーション	数学I	聖書	体育	STEAM 情報
2	英語 コミュニケーション		言語文化	英語論理表現	物理基礎	
3	歴史総合	保健体育	英語 コミュニケーション	数学A	言語文化	Project
4	数学I	体育	物理基礎		数学I	
5	STEAM 美術	Immersion SDGs	歴史総合	Liberal Arts	STEAM 理科	
6			LHR			
7			Immersion Competency			

自分のテーマを見つけ、 身につけた力を実践する

Project（週 2 時間）

大学のゼミに近い独自科目で、生徒は5つのカテゴリーから所属するゼミを選びます。ゼミでは、自分の興味関心をもとにテーマを設定し研究活動を行います。高校1～3年生が一緒に活動し、時には企業とも連携します。他の独自教科で身につけた力も活かしつつ、最終的には学外に向けた成果発表を行います。「Project」はGlobal Innovation Classの集大成となる教科です。



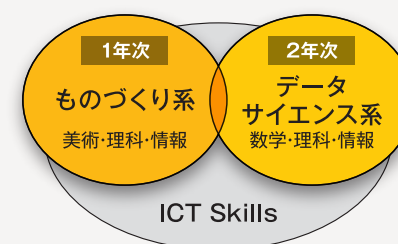
●プロジェクト科の構成

高1	Project①	Project week①	Reflection①
高2	Project②	Project week②	Reflection②
高3	(1学期) GIC OBによる授業	(2学期) 探究論文	

教科を掛け合わせ、 理論と感性 を身につける

STEAM（週 6 時間）

STEAMとは、「科学」「技術」「工学」「芸術」「数学」の5つの頭文字を組み合わせたもので、情報の抽出・分類・比較するスキルや、課題発見・解決に向けた創造・表現のスキルを育てる教育プログラムです。GICでは、高校1年生が美術・理科・情報を学ぶ「ものづくり系」、高校2年生は数学・理科・情報で理論を学ぶ「データサイエンス系」の2つのフェーズに分かれています。「ものづくり系」を通して体験したものを、「データサイエンス系」で意味づけをしていきます。授業は全て探究型授業で構成され、課題解決・価値創造を重視しています。





Teacher's view

Global Innovation Class の今後の展望



高校GIC統括長
山本 周

高校Global Innovation Class (GIC)は、「ものづくり・ことづくり」を通じて世界に貢献する人材を育てることを目指しています。GICでは、Immersion・STEAM・Project・Liberal Artsの4つの独自科目を軸に、複雑化した社会の中で新しい問いを見つけ、暫定的な正解を導き出しながら挑戦する学びを大切にしています。現在、世界では様々な問題が起こっており、地球環境や世界平和を築いていくことが急務です。また、日本国内では少子高齢化や経済停滞、地方の過疎化など、解決すべき課題が山積しています。そのような課題を解決し、明るい未来の世界をつくっていく主役は、まさに今の若者たちです。GICでは、生徒一人ひとりの「好き」や「面白い」を起点に、他者や地域、世界とつながり、協働しながら学びを深め、デジタルとアナログを融合させたハイブリッドな学習環境を通じて、自ら考え、行動する力を育てています。これからの社会で必要とされる「問いを立てる力」と「挑戦する姿勢」を育み、世界と未来を切り拓く人材の育成に挑戦しています。GICの生徒たちは、地域や社会と協働しながら多彩なプロジェクトに挑戦しています。防災マップや避難ルートを共有するオンライン防災啓発、環境問題を学ぶ木育ゲーム「Grow Tree」、日本茶の香りを活かしたリードディフューザー、多文化共生を伝える音と身体表現のパフォーマンス、SNSやメディアリテラシーを探究する動画制作など、生徒主体の実践が広がっています。

STEAM

課題解決に必要な理論と感性を「ものづくり系」「データサイエンス系」を通じて学び、
価値創造までのスキルセットを身につけます。

1年次

ものづくり系

美術・理科・情報

2年次

データ
サイエンス系

数学・理科・情報

1年次

ものづくり系

画材、色、光、音、空間など
様々な作る体験を通した学び

●授業テーマ

- ・観察 to 想像
- ・卵テンペラ絵の具
- ・色のかんかくストレッチ
- ・身の回りのものに才能を与える
- ・切り絵アート
- ・ボックスアート
- ・音のかんかくストレッチ
- ・日常の音でサウンドを作ろう (Ableton)
- ・かおりのかんかくストレッチ
- ・光の対話型鑑賞 (ILLUMME)
- ・かたちのかんかくストレッチ
- ・SFプロトタイプ
- ・五感を使った空間デザイン



五感を使った空間デザイン

高校1年生のSTEAMの授業ではさまざまなアプローチで五感を刺激する授業を行なっています。「観察 to 想像」では、身近な植物をじっくり観察し、その形や特徴から自由に想像を膨らませて新たな物語や名前を創造する体験型プログラムを行い、「光と色の三原色」では、光と画材の混色を通して色とは何か?について学びます。他にも「感覚ストレッチ」「光の対話型鑑賞」などを行い、それらの集大成となる「五感を使った空間デザイン」の作品制作を行います。デザインは技術だけではなく、自身の感性や葛藤、そしてその場で感じた違和感すらも含めて、「今、この瞬間の自分」と向き合う営みでもあります。自分の中のもやもやを客観的に捉えて、論理と感性を育成し、新たな価値を創造することが、STEAMで大切にしている取り組みです。

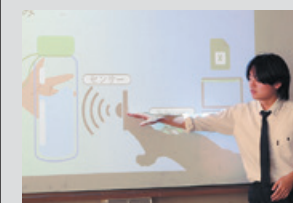
2年次

データサイエンス系

理科、数学、情報を通して、
科学的手法とデータ分析を身につける学び

●授業テーマ

- ・科学的思考法と科学研究の作法を学ぶ
- ・化学実験を通してデータの記録とまとめ方を学ぶ
- ・生成AIのしくみや留意点について開発者の視点から学ぶ
- ・プロンプトエンジニアリングスキルを高めて生成AIを使いこなす
- ・さまざまな「エネルギー」について学際的に考える
- ・太陽光発電実験を通して
エネルギー生産・消費について多角的に考察する
- ・Net Zero Energy 実現のための方策を考案する
- ・ロボット制作を通して工学やプログラミングについて学ぶ
- ・地域課題をデータで可視化し、解決策を考える
- ・年取データをもとに代表値を学び、分析・考察する
- ・回帰分析を使って未来予測に挑戦する
- ・相関関係を見つけて社会問題の背景を探る
- ・統計的手法で防災やリスクをデータ分析する



データサイエンス

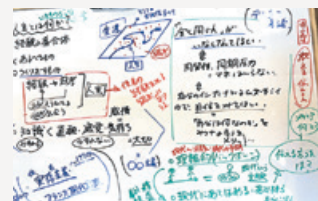
新学習指導要領の内容に加え、IoT社会におけるデータサイエンスや今後活用が当たり前である生成AIなどの分野も実践しています。これらの学びが原体験となりスキル習得や論文作成へ発展し、毎年数多くの外部コンテストへも挑戦しています。その成果として、統計データ分析コンペティション2022「審査員奨励賞」、地方創生*政策アイデアコンテスト2022において「東北経済産業局局長賞」、2024マイナビキャリア甲子園「Innovation部門優勝」、ロボッチャ®ジャパンカップ2024「優勝」にもつながりました。学年の始めはスプレッドシート上の大量の数字に諦めモードであった生徒たちが最後には「こんなに本気になったのは初めて!」と目を輝かせながら取り組んでいました。

LIBERAL ARTS

様々な思考的実験を通して、世界の見方を変える「視点」について学びます。
その「視点」を土台として、他の独自科目が創造的に展開されます。

世界に横たわる問題の システムを描く（高1）

自分の文脈とは異なる世界に出会う。見えない部分に動くシステムを描き、アプローチを考える。高1では「視点を変える」PBLを行います。例えば「ジェンダー不平等を解消する案を考えよ」というテーマでは、ドキュメンタリーを見たあと「ジェンダー」「ノンバイナリー」といった概念について、資料を探索し自ら学びます。因果ループ図を描き出し、解決策を動画で表現します。



より大きな構造を描き、 当事者の視点で問う（高2）

ある問題のシステム同士を繋げ、通時的・共時的な大構造を描く。その中に生きる当事者性の視点で問う。高2で目指すのは「内側」からのアプローチです。例えば「デザインは人々にどう影響するか?」というPBLでは、身近なデザインを探索し、それを成立させる社会システムを学術的手法で分析します。その上で「学校のあたらしい公共空間をデザインする」作品を作ります。



世界にどう関わるかを 描き出す（高3）

高3では、これまでのGIC・聖学院高校3年間の探究すべてを材料に、「自分は、どう在るのか」を描きます。自らの目指す世界のヴィジョンや携わり方、それに向けた研究計画といった「在り方」を描く志望理由書。これまでの探究に学問的な視座を設定しリサーチを深める探究論文。2つの集大成を、生徒同士や担当者、OBやプロジェクト関係者との対話を重ねて執筆します。



IMMERSION

「公共」「家庭科」「保健」をSDGsの視点を取り入れつつ英語で学びます。
ディスカッション、アクティビティ、プロジェクト、発表を重視し、それにより生徒中心の学びを形成します。

英語で社会科（公共）を学ぶ

社会科の教員とネイティブ教員が担当し、SDGsを英語で学びます。授業では、非英語圏諸国が持っている英語メディアを使って国際紛争についてリサーチして解決策を提案したり、サステナブルな街をデザインしてプレゼンしたりするなど、英語でのインプット・アウトプットを重視します。また、様々なゲスト講師を招いたワークショップを行います。英語でのリサーチやゲストの授業を通じて、社会課題について自分なりのユニークな視点を獲得することを目指します。



英語で家庭科を学ぶ

「世界のどこへ行っても生活する力を身につける」を目的に、持続可能な生活や環境、文化を考え、自分達の考えを英語でアウトプットしていく授業を展開しています。「食を通して海外の国・地域や異文化を知る」「食と環境や健康の関係を考える」といった、グローバルな視点を養い、自分の意見を英語でアウトプットしていきます。ほかにも、世界各地のコミュニティや家庭のあり方、フェアトレードや世界で生きていくための生活経済について学んでいます。



英語で保健を学ぶ

外国人講師と保健体育科教諭のチームティーチングによる「All English」の保健の授業。「lifeskills」「sports」「gender」「health&body」を基本テーマに、日本の教科書の枠から飛び出して「世界中の誰もが幸せに生きるためには」という問いに立ち向かいます。ペアワークや定期的なグループプレゼンテーションを通して、「アウトプットこそ最大の学び」を実践しています。また、ドイツ発祥のライフキネティックというエクササイズメソッドを導入して、脳も体もシャープに研ぎ澄まされる授業です。



PROJECT

国際系・社会系・環境系などの中から、自分の興味関心に従いゼミを選び、テーマを設定して研究します。
問いから探究、アウトプットまで生徒中心に行われる GIC の集大成です。

●現在進行中のプロジェクト

※以下のプロジェクトは常設ではありません。生徒の成長により目的を果たし、終了するものもあります。

宗教・文化

●目標:聖書の思考方法を探究することで「神を仰ぎ 人に仕う」「Only One for Others」を体現する聖人を育成する。

【内容】キリスト教精神や宗教的な理念によって運営されている企業や団体の活動を研究・調査し、理論と実践について学ぶ。「自分とは何か」という永遠の問いに挑む。聖書の文化を理解し、現代社会への適用や融合を考え、文化的な軋轢に対して行動する。

貧困 vs. 起業

●目標:自分の限界を知り、一方で自分の限界の裾野を広げる小さな成功体験を積み上げ、創造社会を生きていく人財を目指す。

【内容】まず国内で、起業に必要な知識と経験を積み、資金を集め、商品をつくり、販売ルートを開く。将来的にはタイでも起業する。そしてその事業をタイの人たちに引き継いでもらう。これが現実の貧困問題に立ち向かうことに繋がるかどうかを検証する。

生活環境

●目標:生活・社会・環境課題を発見でき、私たちができる課題解決アクションや啓蒙活動を考案・実践・研究し、循環・共生社会実現を目指す人材を育成する。

【内容】生活に課題を抱える高齢者・子育て世代・外国人などの地域住民の生活がより豊かで幸せになるために、また持続可能な社会に向けた資源活用や環境保全のための生活を送るために、私たちができる課題解決アクションや啓蒙活動を考案し、実践・研究する。

哲学・メディア・芸術

●目標:自己の内発的動機や、今ある世界への違和感から問いを「哲学」し、探究し、自己の外へ開く手段である「メディア」を求め、世界にまだない何かを創り出す「芸術」をする。

【内容】世界を知り、自己の一人称視点、自身の位置、文脈を俯瞰し、相対化する。そのうえで、自分自身として問う。その問いを自身の研究や活動、対話によって広げ、深める。それを表現するためのメディアを探し、表現や創作を試みる。そうして当事者として「在り方」を表明することで、生きる世界の構造変革を目指す。

新ゼミ

●目標:自由闊達にして愉快なる価値創造を目指す。

【内容】テクノロジーによって加速度的に変化していく現代。誰もがあらゆるものをデザインできる環境。その中で、「暫定的な正解」を模索し、実験や挑戦を経て、失敗から学ぶ姿勢を育む。

独自科目の融合例（NHさんの実例）

STEAM

「香りの感覚ストレッチ」

様々な香りを嗅いで言語化する



Project

「貧困vs.起業」ゼミ

生徒自身の問い「緑茶の消費を拡大する課題」に取り組む



緑茶アロマの商品開発



5年間の米国生活を経て帰国後、自国文化への関心が薄い同級生の姿に衝撃を受ける。以降、緑茶離れの現状に対し茶葉販売を試みるが断念。しかしSTEAMの「香りの感覚ストレッチ」を体験し、香りの可能性に着目。今では緑茶の香りのディフューザー「てらすaroma茶」の製造販売を通じて、緑茶文化の新たなニーズ創出を目指して活動中。

「QWSチャレンジ」に採択

渋谷のQWSでは「QWSチャレンジ」という「未知の価値に挑戦するプロジェクト」を推進するプログラムがあります。公募制で、採択されたチームは、QWS内のプロジェクトスペースを無料で利用できます。GIC生も2022年から応募しており様々な活動が採択されています。2025年度からはQWSのコーポレート会員になりました。

【採択された活動例】

- ・地域資源の価値を最大化するために、コミュニティと人材はどのように連携できるか?
- ・デザインが顧客の性格を理解し、今の自分とは違う別の性格への変身を導くためにはどうしたら中高生の物語を未来の価値として紡いでいけるか?
- ・思春期の概念を崩す親子のコミュニケーションとは?
- ・サブカルチャーを通して、言葉にできない感情を言葉にするためにはどうしたら良いのか?
- ・衰退する日本文化に新たなニーズを確立させることはできるのか?
- ・江戸東京野菜は東京の新しいグルメブランドになるのか?
- ・意識高い系を誇れる社会をつくるには?

詳細は
こちらから



Student's view



3年

プロジェクトを通して、将来やりたいことが見つかりました

GICのプロジェクトにおいて「親子カルタ」というゲームを作っています。このカルタは、家事や育児の疲れを数値化し、親子で楽しみながら共有することを目的としています。普段、子どもが親に「今日どんな仕事をしたの?」と尋ねることはほとんどありません。親の日常やその大変さを知ることがコミュニケーションの第一歩だと思っています。このゲームを通じて親子間での家事や育児に関する理解を深め、会話を豊かにしたいです。このプロジェクトの過程で、板橋区役所が夫婦間のコミュニケーション向上を目的として作成したカードゲームを参考にしました。その際、自ら区役所に趣旨説明をし、理解を得て、カードゲームのレクチャーを受ける段取りを組みました。一人で学外の組織と交渉したとても貴重な経験でした。将来は子どもたちに多様な体験を提供する学童施設を作りたいと思っています。



2年(高入生)

生徒が楽しそうに活動している姿を見て、聖学院に決めました

受験の時に、自分に合った学校を探していたら聖学院が目に残り、説明会やプロジェクトの発表に参加しました。そこで見かけた先輩たちがみんな楽しそうにしている良い学校だなと思いました。GICの、頭を使うだけではなく五感を使って考える斬新な授業にも興味があり聖学院に決めました。プロジェクトでは、子どもの外遊び離れについて取り組んでいます。最近の街中の公園はボールなどの遊び道具が禁止されています。またタブレットやスマホの普及もあり子どもが外で遊ばなくなりました。そこで、絵本を通じて子どもを外遊びに誘導できないかと考えています。公園にある小枝や花などの自然を、借景的に取り込むことでストーリーが展開する仕掛け絵本です。絵やストーリーはAIを活用しながら作り進めています。自分の考えが形になる過程が楽しくて充実した学校生活を送っています。



2年(高入生)

高校生の時から社会を意識した学びができるクラスです

ゼミでは、食堂のメニューごとの時間帯別販売件数データをとるシステム作りをしています。学食は同じ昼休みでも時間帯で利用者数に偏りがあり、またメニュー自体はあるものの販売機のチケットが先になくなるケースもあります。これらを解消するにはただの販売数ではなく、厨房側が準備しタイムリーに対応できる時系列のデータが必要です。そこでセンサーを開発している企業に協力してもらい、食堂の販売機に、タッチするとカウントされるスクーミーというものを付けさせてもらいました。それを制御し5分ごとのデータを集計するプログラムを作っています。何度もバグに阻まれましたがスクーミーの提供企業の方の助言で乗り越えることができました。GICは、プロジェクト以外の独自教科においても社会と関わる機会が豊富です。この環境を活かし、これからも社会につながる学びを得ていきたいと思っています。

2019～2025年度海外大学進学実績 (聖学院高校全体)

Asia Pacific University of Technology & Innovation
Arizona State University
Art Center College of Design
Augsburg College
Augustana College
Boston University
Carleton College
City University of New York
Fordham University
Griffith University
Grinnell College
Hope College
Indiana University--Bloomington
Lake Forest College
Lycoming College
Miami Ohio University
Michigan state University
Monash University
North Central College

Ohio Wesleyan College
Oregon State University
Penn State University
Rutgers University--New Brunswick
Saint Louis University
Stony Brook University
SUNY* Cortland
Syracuse University
Temple University
Thompson Rivers University
University of British Columbia
University of California, Davis
University of California, San Diego
University of California, Santa Cruz
University of California, Irvine
University of California, Santa Barbara
University of Illinois Urbana-Champaign
University of Pennsylvania
University of Southern California

University of Toronto
University of Washington
北京外国語大
国立成功大学
逢甲大学
義守大学
国立中央大学
国立台湾師範大学
中原大學
輔仁大学
東呉大学
世新大学
国立中山大学
東海大学
実践大学
国立中興大学
實踐大学
他

※SUNY:State University of New York

graduate's voice

GICの卒業生に 聞いてみました

1 GICに入ろうと思った理由、きっかけ、 魅力に感じたことなどを教えてください



中3の時にバラスポーツPJに初めて参加した際に「自分も人の役に立てる」という実感と新しい時間の費やし方や意義を見出せたので、興味関心分野の模索や行動範囲を広げるために決めました。【1期生】



アドバンストクラスに馴染めなかった中学3年生の時、GIC新設を知り見学へ。そこで、実践と理論を深く楽しく学べるというGICの気概と、自らの意思で学ぶことを重視する姿勢に魅力を感じ、志望を決意しました。【2期生】



GICには、高校生のうちから大学レベルのプロジェクト活動ができる点に魅力を感じました。また、他のクラスよりも自分のやりたいことを手助けしてくれる環境があり、自分でも気づかない強みを発見できたと感じたことが、入学を決めた理由です。【2期生】



3Dプリンターやレーザーカッターを使った制作活動に魅力を感じたからです。また、他校や社会人と接する機会が多いことも大きな魅力でした。人脈が広がり、多様な価値観に触れることで、自身のコミュニケーション力や胆力も向上したと実感しています。【2期生】

2 STEAMの授業では どういったことをやりましたか?



STEAM Designの授業では、絵の具やレーザーカッターなど様々な技術や道具を使い、切り絵を組み合わせた作品を制作しました。グループでは、これらの技術を活かしてオリジナルの世界観を指定された空間の中に表現する挑戦的な体験もしました。【2期生】

3 STEAMの授業の中では どの授業が好きでしたか?



60cm立方体の空間アートの授業が一番好きでした。チームでゼロから作品を考案し、メッセージ性や予算を考慮しながら、全員で協力して良い作品を作り上げるための過程が印象に残っています。【2期生】



STEAMの授業では「色の感覚ストレッチ」が一番好きでした。GICでやりたかったパソコンを使った制作を初めて体験でき、特にレーザーカッターを使った作業が新鮮で面白く、記憶に残っています。【2期生】

4 Immersionの授業では どういったことをやりましたか?



SDGsは原則英語です。社会問題の説明を聞いた後にワークを行いました。サーキュラーエコノミーについて考えたり、ゲストティーチャーに授業をして頂いたり、様々な方法で社会問題を知りディスカッションしました。ネイティブの先生の手厚い英語のサポートも魅力でした。【1期生】



Competencyでは性別や差別など、現在のセンシティブな話題を真剣に議論し、互いに発表し合う授業を行いました。教科書のような定型文ではなく、日常的に使用する英語を先生から聞けることが面白かったです。【1期生】



Immersion SDGsの授業では、世界の環境・貧困・ビジネスなどの現状を学び、解決策をプレゼン形式で発表しました。特に、衣料繊維が環境に与える悪影響を知り、身近な生活の中に危機感を覚えたことが印象的でした。【2期生】

5 3年間のGICで成長を感じたところは どんなところですか?



「思考力」と「市民性」です。「考え方の考え方」を獲得できました。また地球に生きる一人として、既存のパッケージ化された「イイ社会」を何となく目指すのではなく、真に市民として生き「より良い社会を作るためには?」と考え理解を深めるきっかけにもなりました。【1期生】

6 在籍期間中に どんな社会課題に取り組みましたか?



3年間のGICで、私は「探究することの楽しさ」を知りました。GICの課題は特に没頭できるものが多く、夢中になって取り組むうちに、何かを知ることの面白さに気づけたのが、一番の成長だと感じています。【2期生】



3年間のGICで、「やりきる力」が大きく伸びたと感じています。部活やプロジェクト、研究活動で多忙な日々でしたが、どんなに大変でも諦めず、「なんとかやる」と信じていることが全てをやり遂げることを可能にしました。【2期生】

7 クラスメイトには どんな生徒がいましたか?



英語、ICTやSDGsなどに興味を持ち取り組んでいました。自分を持っている人が一定数おり、権力には抵抗的な集団でもありました。聖学院は言葉では言い表せない「聖学院らしさ」な雰囲気があり、学校生活によって更に「らしさ」を増して濃くなっていく。そんな仲間から受けた影響はとてつもなく、表す言葉が見つかりません。【1期生】

8 将来もしくは今後の予定について 教えてください



日本人の感性を大事にしたカーデザインを世界に向けて発信できるようなデザイナーになりたいです。そして常に感謝を忘れない人でありたいです。【1期生】



将来は看護師になり、あらゆる場面で最適な看護を提供できる人材を目指しています。その後は、診療看護師の資格取得に向けて研鑽を積んでいきたいです。【2期生】



将来は映画評論家や放送作家、アナウンサーなど、何かを発信できる人になりたいです。そして、小学生のような好奇心旺盛な大人であり続けたいと思っています。【2期生】

「GICに興味を持っている中学生に一言!」

チャンスは自分から掴むものだ。自分が納得できる選択をしてください。

「何か新しいものに挑戦してみたい!」「自分にはどんなことができるか探したい」と考えている人は是非! きっと自分の人生を変えるきっかけとなる先生や友達に出会えると思います。



[高等学校]帰国生入試 募集要項

	A方式 英語圏の現地校で学習された方向け	B方式 日本人学校で学習された方向け
試験日	2026年 1月22日 (木)	
出願期間	2026年 1月15日 (木) 9:00 → 1月20日 (火) 16:00	
試験科目	英語 (英検2級～準1級程度)	英語 (英検3級～準2級程度)・思考力
面接	英語・日本語	日本語
募集人員	5名	
合格発表	HP 当日 20:00～	
合格判定	Global Innovation Class	
入学金支払期限	2026年 2月13日 (金) 12:00	
時間配分	受付～8:30	
	1時間目 英語 8:50～9:50 (60分)	1時間目 英語 8:50～9:50 (60分)
	2時間目 英語面接 10:05～ (20分程度)	2時間目 思考力 10:05～11:35 (90分)
	日本語面接 (10分程度)	3時間目 日本語面接 11:50～ (20分程度)

●出願方法

インターネット出願

●出願資格

- ①2026年3月に中学校卒業(卒業見込)または同等の学力を有する生徒。
- ②原則として海外在住期間が1年以上、帰国後3年以内(現海外在住者を含む。)
- ※上記に準ずる海外在住経験等の条件を配慮いたします。事前にご相談ください。
- ③本校の教育理念に賛同する者

●受験料 24,000円

●必要な書類

提出書類	①調査書 a. 日本人学校及び国内の公私立学校在籍者は公立高校用のものを使用 b. 海外の現地校及びインターナショナルスクールの在籍者は在籍校からの成績レポートを提出 ②海外在留証明書(保護者勤務先発行のもの)
提出期限	2026年1月20日(火) 必着
提出方法	以下①②のいずれかを選択 ①簡易書留 ②メール(アドレス shiken@seigakuin.ed.jp) ②の場合は件名に【出願者氏名】【受験番号】を明記の上、添付して送信

●窓口問い合わせ時間

月～土 9:00～16:30(日曜・祝日 その他学校の定める休校日を除く。)



[高等学校]一般入試 推薦入試 募集要項

	推薦入試	一般入試
試験日	2026年 1月22日 (木)	2026年 2月11日 (水・祝)
出願期間	2026年 1月16日 (金) 9:00 → 1月20日 (火) 16:00	2026年 1月25日 (日) 9:00 → 2月7日 (土) 16:00
試験科目	適性検査(2科)・面接 適性検査(英語・思考力)／面接 ※英検3級～準2級程度	英語・思考力・面接 ※英検3級～準2級程度
募集人員	5名	10名(併願優遇措置5名)
合格発表	HP 2026年 1月23日 (金) 12:00～	HP 当日 20:00～
合格判定	Global Innovation Class	
入学金支払期限	1月24日 (土) 23:59	2月13日 (金) 12:00 (公立高校受験者を除く)
時間配分	受付 8:30～8:45	
	1時間目 適性(英語) (60分)	1時間目 英語 (60分)
	2時間目 適性(思考力) (90分)	2時間目 思考力 (90分)
	3時間目 面接 (20分程度)	3時間目 面接 (20分程度)

[推薦入試]

●出願方法

インターネット出願

●出願基準

- ①2026年3月に中学校卒業見込の生徒。
- ②本校の教育理念に賛同する者。
- ③内申点の合計が3教科(英数国)で11以上、かつ5教科全てにおいて2以下がないこと。
- ④2学期制の場合は後期中間まで、3学期制の場合は第2学期までの成績で上記の要件を満たしていること。
- ⑤英検準2級・英検準2級プラスは+1点、英検2級は+2点、英検準1級以上は+3点の加点を行う。(TOEFL等のテストも加点しますのでご相談ください)
- ⑥推薦入試希望者は、2025年12月15日(月)以降に学校間による「入試相談」を要する。

●受験料 25,000円

●必要な書類

提出書類	調査書(公立高校出願用)
提出期限	2026年1月20日(火) 必着
提出方法	簡易書留

[一般入試]

●出願方法

インターネット出願

※公立高校受験者で入学手続き延期を希望される方は、本校所定の「入学手続き延期願」を提出の上、出願してください。

●出願基準

- ①2026年3月に中学校卒業見込の生徒。
- ②本校の教育理念に賛同する者。

●併願優遇措置希望の方

- ①内申点の合計が3教科(英数国)で12以上、または5教科で20以上かつ2以下がないこと。
- ②2学期制の場合は後期中間まで、3学期制の場合は第2学期までの成績で上記の要件を満たしていること。
- ③英検準2級・英検準2級プラスは+1点、英検2級は+2点、英検準1級以上は+3点の加点を行う。(TOEFL等のテストも加点しますのでご相談ください)
- ④併願優遇措置希望者は、2025年12月15日(月)以降に学校間による「入試相談」を要する。

●受験料 25,000円

●必要な書類

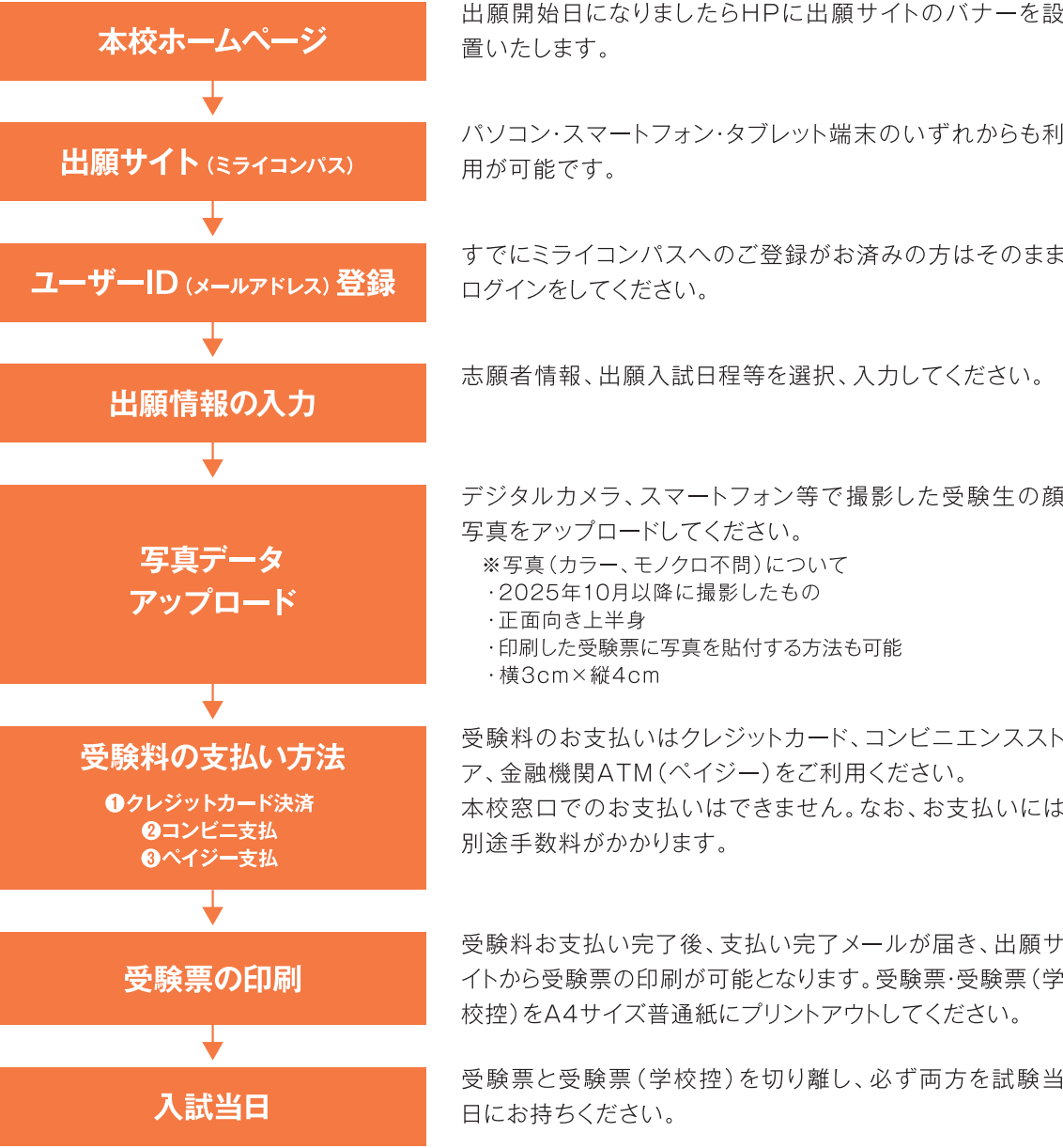
提出書類	調査書(公立高校出願用)
提出期限	2026年2月7日(土) 必着
提出方法	簡易書留

●窓口問い合わせ時間 月～土 9:00～16:30(日曜・祝日 その他学校の定める休校日を除く。)

インターネット出願について

- 本校窓口や郵送による出願は行っておりません。
- 期間中は平日・土日・祝日24時間手続きが可能です。
- 各種クレジットカード・コンビニエンスストア・ペイジーでのお支払いが選べます。
- 受験料お支払い後の出願内容の訂正、取り消し、返金は一切できませんのでご注意ください。

出願手続きの方法



左記QRコードのサイトから詳細な手順確認ができます。
<https://www.mirai-compass.jp.net/nygk/>

試験当日

持ち物
☐ 受験票と受験票(学校控え) ☐ 筆記用具 ☐ うわばき ☐ くつ袋
受験上の注意
●受験生はアナウンスの指示に従い、試験会場へ移動してください。 ●試験開始より15分までは遅刻入場可能です。但し、時間の延長はありません。 ●携帯電話、スマートフォン、通信機能付き時計等は電源を切り、カバンから出さないでください。 ●面接の終了時間は、順番によって変わります。 ●試験中にトイレへ行きたいときは、試験監督に手を上げて申し出てください。但し、試験時間の延長はありません。 ●試験中に体調不良になったときも、試験監督に手を上げて申し出てください。
保護者の方へ
●試験終了後は、当日指定された場所で受験生と合流してお帰りください。 ●駐車場はございません。お車でのご来校やお迎えはお控えください。公共交通機関でのご来校をお願いします。 ●試験中の保護者控室は、当日ご案内いたします。ご飲食をされる場合は会場の使用上の注意事項遵守にご協力ください。 ●ゴミは各自お持ち帰りください。 ●首都圏の交通機関等が大きく混乱した場合、東京と神奈川の私立学校との事前協定の通り、入試を全て中止し、終日試験日を繰り下げて実施します。

合否確認

本校HP、ピンクのバナー「合格発表」から合否照会サイトにログインID:受験番号4ケタ、パスワード:生年月日8ケタをご入力の上[ログイン]ボタンをクリックしてください。

※ミライコンパス出願サイトのIDとパスワードとは異なりますのでご注意ください。

※受験番号の「0」は省略せずに入力してください。

※誕生日が1ケタの場合は0を前につけてください。

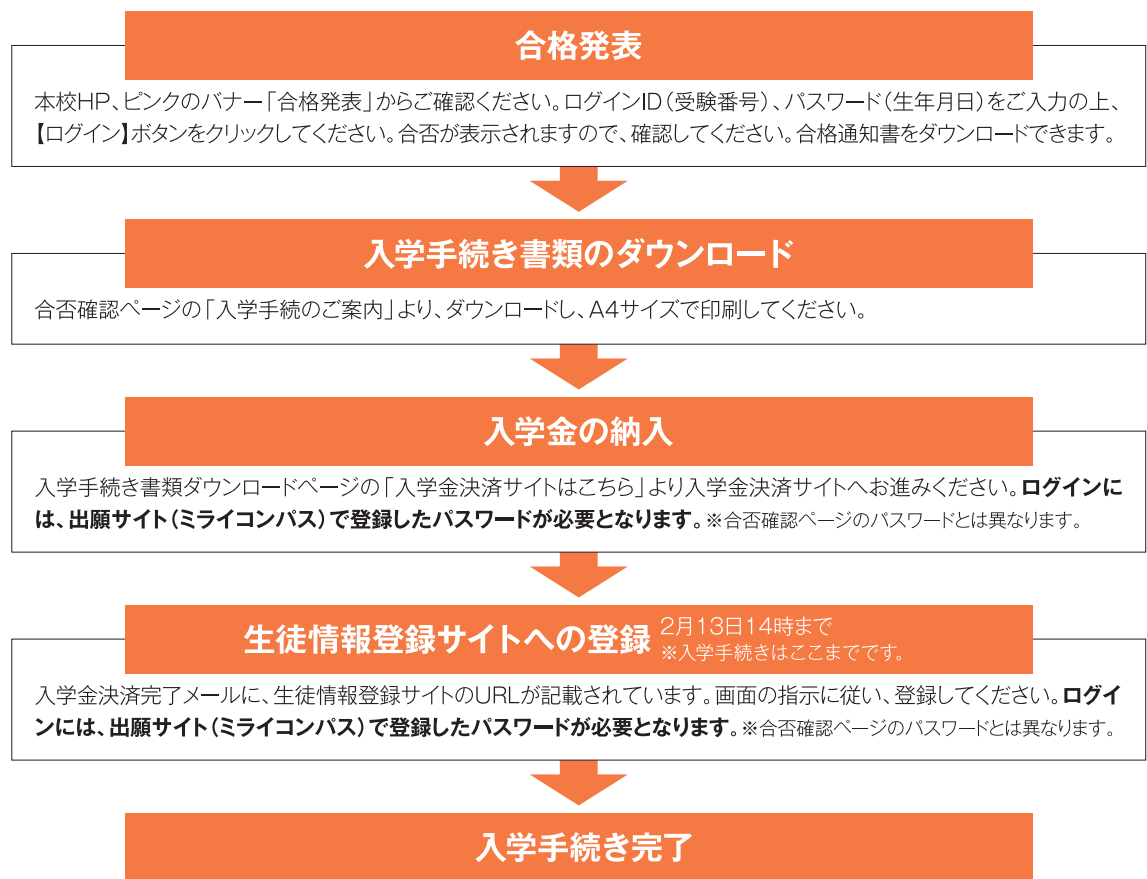
※当日の状況により発表時間が遅れる場合があります。

※発表直後はアクセスが集中するため、一時的に接続しづらくなる場合があります。その際には少し時間をおいてから再度アクセスしてください。

※お電話でのお問い合わせには一切お答えできません。ご了承ください。



合格発表後の手続き手順



諸費用

入学手続き時	入学金	250,000円
	施設費	125,000円
	小計	375,000円
月額	授業料	55,000円
	施設拡充費	7,000円
	積立金・学年費(預り金)※	16,500円
	小計	78,500円
入学年4月に発生する費用	PTA会費	7,200円
	生徒会費	7,700円
	後援会費	18,400円
	小計	33,300円

聖学院教育振興資金について

入学時に1口100,000円、2口以上にご協力をいただけますと幸いです。(任意)

※積立金・学年費(預り金)について

副教材・模擬試験・文集作成・体験学習(教育旅行等)費・卒業対策費等が含まれます。金額は変更の可能性あります。



Global Innovation Classに関するQ&A

Q GICとレギュラー・アドバンストクラスとの違いは何ですか？

グローバルイノベーションクラス独自の科目が週13コマあります。
イマージョン(3コマ)・STEAM(6コマ)・リベラルアーツ(2コマ)・プロジェクト(2コマ)の4科目で、探究型授業となります。残りの22コマはレギュラー・アドバンストクラスと同内容の授業となります。学校行事や宿泊型体験学習は共通のものとして行っています。現在、全学年全クラスにおいて1人1台端末をつかった授業・自宅学習を行っています。本クラスでは学校内使用のノートパソコン(MacBook)も活用し、STEAMの授業を中心に、各種アプリや3Dプリンタ等を使ったものづくり・ことづくりを行う機会が多く設定されています。また、イマージョンは週3時間オールイングリッシュの授業となります。英語“を”学ぶのではなく、英語“で”学び表現する時間となります。通常の英語が週6時間ありますので、9時間が英語に関する授業となります。また、プロジェクトでは、これまで学んできたことの集大成として、自分で研究テーマを設定し、研究・プロジェクト活動を実践していきます。

Q 英語力はどれくらい必要ですか？

英検準2級相当以上の英語力があることを推奨しています。ただ、英検3級相当でも本校の英語教育によって、成績は伸びますので、是非チャレンジしてみてください。

Q 思考力入試はどのような内容ですか？

本校では、2013年度入試より、中学入試において思考力入試を行ってまいりました。そのノウハウを応用し、高校入試用の問題を作成しています。出題内容はSDGsや世界で起こっている問題について、自分なりに情報収集をし、課題解決・価値創造を文章表現していく入試となります。面接においては、受験生の賜物(才能・タレント)を発見できるように、解答内容について深掘りするために質問させていただきます。

Q 面接で聞かれることはどんなことですか？

本校への志望動機、本校で学習・活動したいこと、中学での印象的だった経験、自分の強みや好きなことなどを総合的に質問します。上記の思考力入試での解答内容についても質問します。

Q 事前相談などは必要ですか？

推薦入試や併願優遇措置を利用される方は、本校の学校説明会へ11月末までに参加していただき、本校担当者と個別相談をしていただくことが望ましいです。事前に学校の成績等をお持ちいただき、本校担当者に確認をとるようにしてください。また、現在通っている中学校の先生に本校の推薦入試や併願優遇措置を利用する旨を必ずお伝えください。8月以降の学校説明会・校内見学会では高校入試事前相談コーナーを設置しますのでご利用ください。

●入試科目について

[思考力]

聖学院では、「社会課題の自分事化」「思考力・表現力・主体性・協働性」が世界の課題解決には不可欠であると考えています。そのために国数理社を中心に教科の総合的な力を評価するための入試「思考力入試」を実施しています。Global Innovation Classで大切にしたい力を「思考力入試」に取り入れています。

特に、右記の点を評価しています。

- 社会課題を自分事としてとらえる力
- 情報を読み取る力、聴き取る力
- 比較・分類する力
- 自分なりに課題を発見・設定する力
- アイデアをたくさん出す力
- 文章として表現する力(作文・プレゼンテーション)

※句読点や誤字は減点しません。

[英語(推薦・一般ともに)]

Global Innovation Classでは世界で活躍する人財の育成を目指しています。授業では、英語6時間と「Immersion」3時間、合計9時間を英語で学びます。したがって、英検準2級程度の英語力が必要となるために、入試問題も英検3級～準2級程度のレベルで設定しています。特に、Readingのテーマに対する自由英作文を課しており、自分の英語で表現する力を大切にしています。

※英作文の細かいミスは減点しません。



こちらより過去の入試問題がダウンロードできます。
あわせてご確認ください。

システム・操作に関するお問い合わせ先

ミライコンパスサポートセンター

<https://www.mirai-compass.jp.net/nygk/>

Tel 0120-907-867 Tel 03-5877-5952 [24時間受付]

お問合せ対象の ①コード: (0195) 聖学院中学校 ②氏名 を伝えてください。

説明会情報

7月12日(土)	学校説明会・体験会③ レゴキング選手権
7月26日(土)	オンライン学校説明会②
8月23日(土)	学校説明会・体験会④
9月6日(土)	高校 オンライン学校説明会①
9月13日(土)	学校説明会・体験会⑤
9月20日(土)	校内見学会①
10月11日(土)	校内見学会②
10月18日(土)	帰国生オンライン入試説明会③
10月25日(土)	学校説明会・体験会⑥ 高校 オンライン学校説明会②
11月8日(土)	校内見学会③
11月12日(水)	オンライン学校説明会③
11月29日(土)	入試対策説明会①
12月20日(土)	入試対策説明会②
1月10日(土)	入試対策説明会③
3月28日(土)	学校説明会・体験会⑦

※赤字は高校入試相談があります。
※開催内容を変更する場合がございます。
詳細はホームページをご確認ください。



●access

JR山手線 駒込駅 東口 徒歩5分

東京メトロ南北線 駒込駅 3出口 徒歩7分



聖学院 中学校
高等学校

お問い合わせ先 入試広報部
Tel 03-3917-1121 (代表)
(月～土 9:00～16:30)

<https://www.seigakuin.ed.jp/>
〒114-8502 東京都北区中里3-12-1
Fax 03-3917-1438

